

## COLUMN

私の率直な感想は、「意外に紙媒体で新聞を読んでいるなあ」です。パソコンスキルは縄文人、生人のレベルであつて、日頃デジタルデバイド（情報格差）の悲哀を実感している一初老としては、新聞離れが叫ばれる昨今の実態とはいささか乖離しているようにも思えた次第です。

そこまで余計なことを一言。競争を前提とするならば、眞の情報と

が公表した「2015年全国メディア接触・評価調査」の結果によれば、紙媒体の新聞を読んでいる人は77・7%であり、新聞社発行電子版を利用している人は9・4%でした。2015年11～12月、全国の15～79歳の男女7000人を対象に調査を実施し、3845人から回答を得たそうです（『北海道新聞』2016年3月16日付記事）。

それはさておき、日本新聞協会が公表した「2015年全国メディア接触・評価調査」の結果によれば、紙媒体の新聞を読んでいる人は77・7%であり、新聞社発行電子版を利用している人は9・4%でした。2015年11～12月、全国の15～79歳の男女7000人を対象に調査を実施し、3845人から回答を得たそうです（『北海道新聞』2016年3月16日付記事）。

桜前線 北上の便りが頻繁に届けられる時節となりました。北海道上陸が待ち遠しい限りです。食いしん坊の私は、花見弁当が目に浮かびます。花より団子。

**仕事について考える**

連載  
61

札幌大谷大学社会学部  
教授 平岡祥孝

は差異化・差別化されたものでなければなりません。誰でも手に入ら優位性を持ちえません。それでは真の情報を独自に入手するためには、どうすれば良いのでしょうか。それは人がもたらします。ネット社会が進化すればするほど逆に、人的ネットワークの価値はますます高まるのでは。やはり人間関係を大切にしなければなりませんね。

いずれにしても、紙媒体は紙媒体の良さがあるものです。いつも私の独断と偏見ですが、読解力、理解力、思考力等々、社会生活を営む上で必要な基礎力を養っていくには、紙媒体に一日の長があるのでないでしょうか。大切と思う解説記事や論評、社説やコラムにアンダーラインやサイドラインを引きながら、あるいはキーワードに印をつけながら、熟読していくことを習慣にするならば、相当な力の蓄積に。新聞は社会の木鐸と言えば、もはや言い過ぎになりますが、まさに新聞は社会教養の教科書ではないでしょうか。

16年3月12日付記事）

質問をし（2月3～7日）、男性139人、女性149人から回答を得たそうです（『北海道新聞』2016年3月12日付記事）。

タブレット端末ならば、トレンド系。上質の手帳ならば、エグゼクティブ系。どちらを選ぶかは、もちろん人それぞれ。ですが、手帳の利点は一覧性にあります。よっては、筆記具にもこだわりを見せるかもしれません。手書きの文字も味があつて捨てがたいもの。時代の潮流に淘汰されることなく、したたかに新聞も手帳も生き抜いて欲しいと思います。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。女子学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

## ARTS



みんなげんき！

浦幌幼稚園のみんな

平成27年度卒園児

14名の卒園記念制作

「浦幌幼稚園の教育目標」です。

一文字ずつ紙粘土で作り、

色を塗りました。

素敵に出来た教育目標に在園児も

大喜びでした！！

玄関や遊戯室に掲示し、

大切に使わせてもらいます！



# 町議会室か5

講師をお迎えして二つの講演会が開催されました。

から湯浅優子氏に講師をお願いしましたが、湯浅さんは東京から農業実習で新潟に来られ、地元の方と結婚された経験を持ちファームインで都会の方と農家を結びつけるグリーンツーリズムの先駆者として、「北海道男女平等女性チャレンジ賞」を受賞されています。

グリーンツーリズムが「ついほるスタイル」とちょっと違うところは民泊を主体にしているところですが、自然を体験し、食への理解を深めるという食育と言う観点では同じであり、その取り組みと全道全国の仲間たちとの活動と自らの貴重な体験を語っていただきました。

「男女共同参画講演会」講師の北村貴さんは「女性がキルする町づくりについて」と題して講演していただきましたが、これからは女性抜きに仕事は考えられないし、女性が主導的役割をこなしていくようになるのではないかと講演され、会場の多くの皆さんの共感を呼んでいました。

北村さんは昨年の帯広・浦幌会にも出席され、どこに行つても浦幌町出身をアピールしていたが、浦幌町の応援団のような方ですが、株式会社グロッキーを立ち上げて十勝はもとより全国的に活躍されています。

お二人には、これからも活躍されますことを願うとともに、すばらしいご講演をしていただいた事へのお礼を申し上げました。安倍首相は年頭の挨拶で、「一億総活躍社会の実現を目指す」と言い、挑戦と言う言葉を3回も使いました。

今や、男女共同参画社会は当たり前で、少子高齢化社会の中で、ますます女性の社会進出は求められています。浦幌町でも更に女性の活躍する町になつてもらいたいと願つているところです。

第1回定例議会では上浦幌中央小学校の子どもたちが、傍聴に来てくれました。

一人ひとりがメモを取りながら、熱心に傍聴していましたが議員の皆さんも私たち理事者や説明員も子どもたちの視線を感じて、いつもより少し議場は緊張感に包まれていたように感じた時間でした。

災害の大規模化、救急需要の増大傾向など、消防を取り巻く環境が多様化している事から、十勝全域での広域化について平成21年から検討を重ねてきました。浦幌町ではこれまで、幕別町・池田町・豊頃町との4町で「東十勝消防事務組合」を組織して消防体制を構築しておりましたが、これからは「とかち広域消防局」として、本部を帯広市において運用する事になります。

指令センターを帯広消防署に置き、十勝管内の119番通報を携帯電話からの通報も合わせて一括して受付し、指令センターからは市町村の垣根を越えて、現場に一番近い消防署に発生現場の地図情報も示して、出動要請する体制をとる事になりますことから、これまで以上に現場到着時間の短縮が図られることや効果的な活動体制を構築して住民サービスに寄与していきます。

ただし、住所を伝える場合は同じ行政区が他町にある場合もありますので、町名からお知らせしていただきことで、更に

詳細な発生場所を特定することができますので、浦幌町の〇〇とあ知らせいたぐりにお願いいたします。

消防団につきましては、東十勝消防事務組合が解散した事により、所属は浦幌町になりますが、基本的活動はこれまでと変わりありません。

消防機材も署・消防団とともに浦幌町で整備していきますし、消防署員の配置も指令センターの職員以外は広域で移動することはありませんので、消防署員が町内の道案内に疎く現場への到着が遅れると言う事は発生しませんのでご安心をしていただきたいたいと思います。

この度、浦幌町のPRビデオが完成いたしました。開町100年のときに制作して以来、年月が過ぎて町の紹介ビデオとしては実態にあつていないことから、新たに作成したものです。3編からなつてあり、各種イベントなどで紹介し、また移住定住希望者への紹介ビデオとしても活用をしてまいります。

2編は町のホームページから見ることが出来ますので、是非ご覧いただき評価をしていただければと思います。